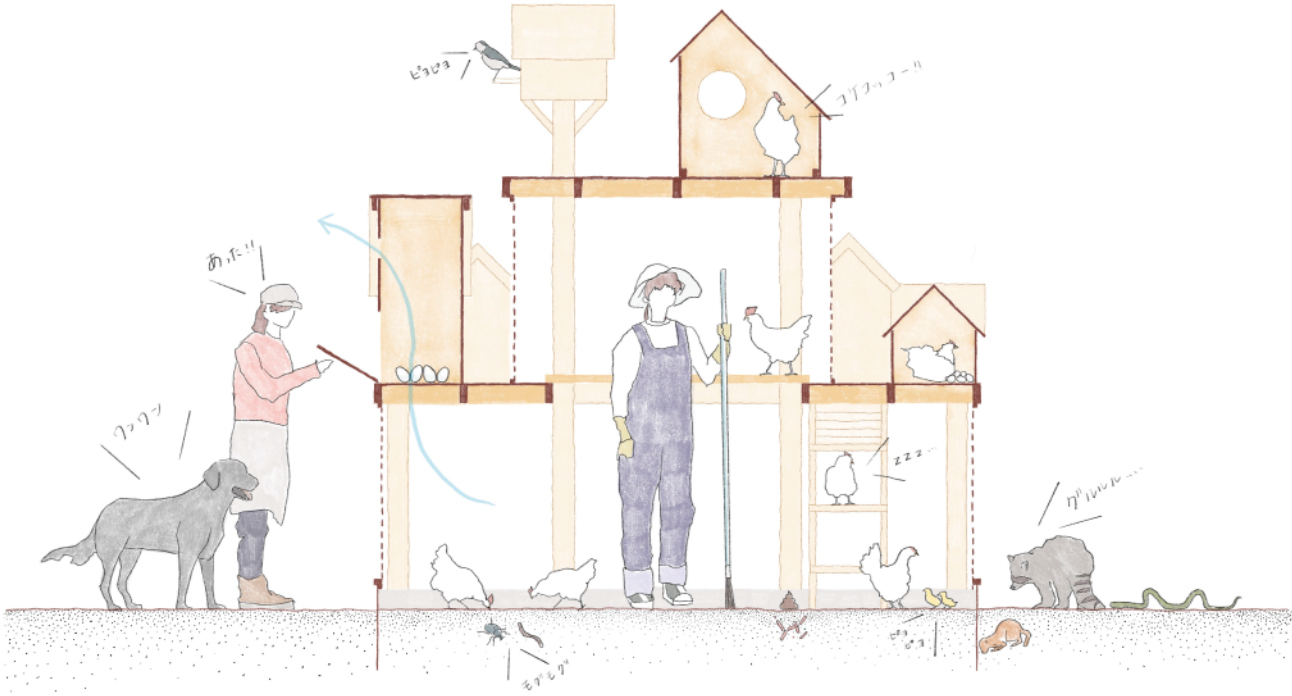
- 滝ケ原ファームにおけるアニマル・ウェルフェアの実践 -

滝ケ原町にこの度新しい住人が入居する。
彼らは私たちよりずいぶんと小さい。
これから一緒に生活する小さな隣人のために、新しい家が必要だ。
なにせ私たちの住んでいる家は彼らにとっては大きすぎるから。
彼らが楽しく暮らせるように、私に何ができるだろう。
立って寝るからベットはいらないし、きれいな床はつまらないそうだ。
それにあったかい羽毛を着ているから私たちより寒いのは得意。
夏は苦手みたいだから日陰とか風通しが大事。
私たちと同じで、出産する場所はこもれる場所がいいらしい。
体を洗うために砂が必要だとか。
彼らは毎朝私たちに卵をくれるらしい。
私たちの畑にまく肥料も与えてくれる。
私たちはそんな彼らのために家を掃除してあげたりすることにした。
彼らとの生活が始まる。



Takigahara Farm の人々

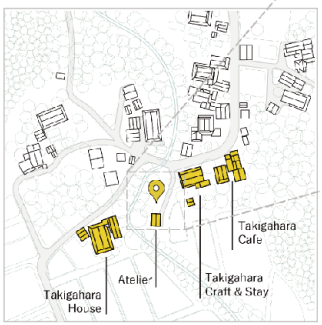
近年 30 年ぶりの新しい住民として、
多拠点生活を送る若者たちがここに住み始めた。
彼らは**都市生活者でありながら、**
自分たちが作ったものを食べるという
「新しい農的な生活」を掲げ暮らしている。

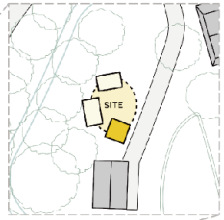
実現の経緯

2020 年 8 月、彼らが開催した
鶏小屋の設計競技にて入賞、
上位 3 案が実際に建築される
ことになった。

敷地周辺ＭＡＰ

今回の敷地は滝ケ原ファームの人々が住宅するエリアの中央にある長屋が解体された跡地を使用する。ここに本計画を含め、3 棟建てることになった。



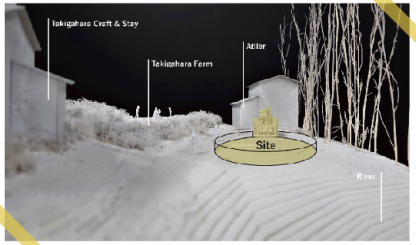


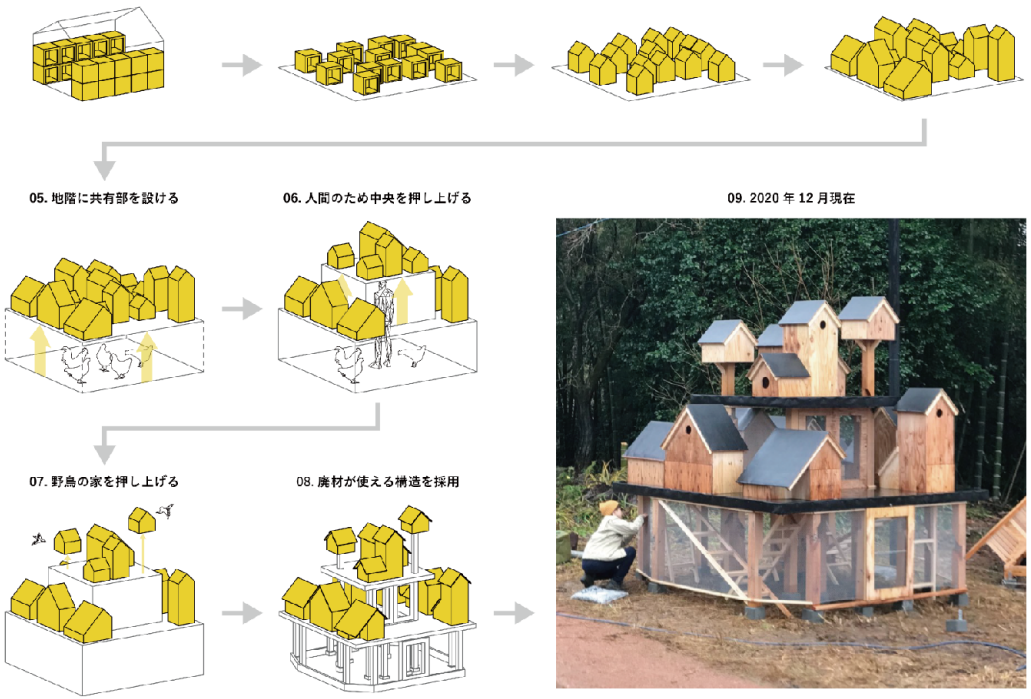
3 棟の位置関係

3 棟をつなぐようにネットを張り、1 中は
建物その中で歩き回れるようにする予定。
本計画はアトリエの正面、アトリエに続く
道に向した位置にある。

微地形のある敷地

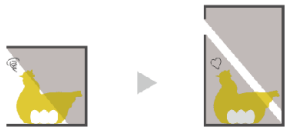
計画地のすぐ脇を川が流
れており、東に向かって
下がっていく微地形のあ
る土地である。
小高くなっているところ
に滝ケ原ファームの畑が
広がっている。
母屋の窓から計画地を見
下ろすことが出来る。
遠景には滝ケ原の象徴で
ある鍬掛山が見える。





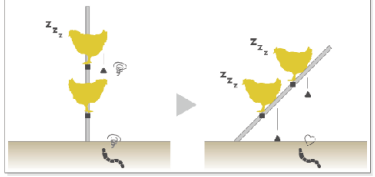
産卵するときはなるべく暗く閉じたところで

鶏は産卵時なるべく人目につかない暗く狭い閉じた場所を好むため、なるべく閉じた空間をつくることを心掛けた。



斜めの止り木でフンを地面に落とし土壌を肥やす

鶏は夜止り木に止まって寝る。止り木を傾けフンを地面に落とすことで、鶏の好物であるミミズにとって快適な土壌環境を生み出す。

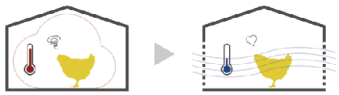


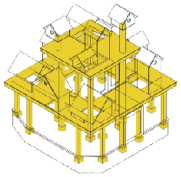
床のない地面の上の暮らし

鶏が土をつついて食べ物を探したり、体を砂にこすりつけて清潔を保つことが出来るよう、基礎をつくらず、ピンコロに柱を立てることにした。

羽毛を着ている鶏のための涼しい家

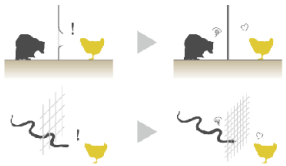
鶏は寒さに強い一方暑さに弱く熱中症になりやすい。そのため、通風を充分に確保できるよう柱構造とし、四隅を金網で囲くことにした。





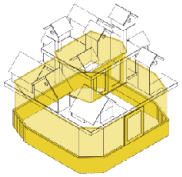
鶏を捕食する動物の侵入を防ぐ①

アライグマや蛇などの動物が内部に侵入するのを防ぐため、金網にφが 1 以上あり、また目の細かいものを選ぶ。



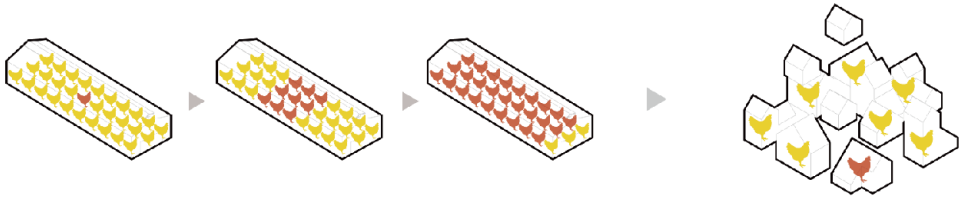
鶏を捕食する動物の侵入を防ぐ②

イタチなどが土を掘って内部へ入るのを防ぐため、GL-300 まで下タンの波板を四周に埋める。



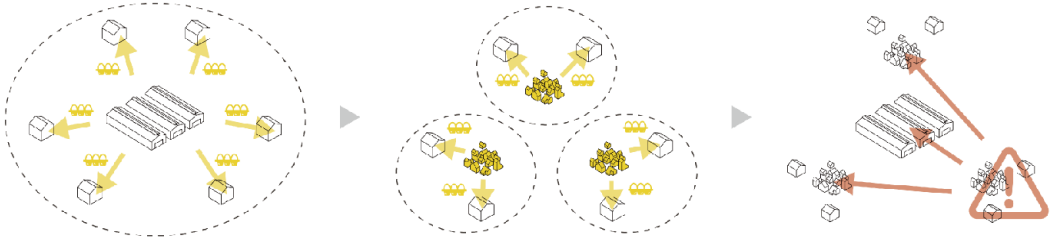
メリット：大規模鶏舎ではキャッチできない感染拡大の予兆をキャッチできる

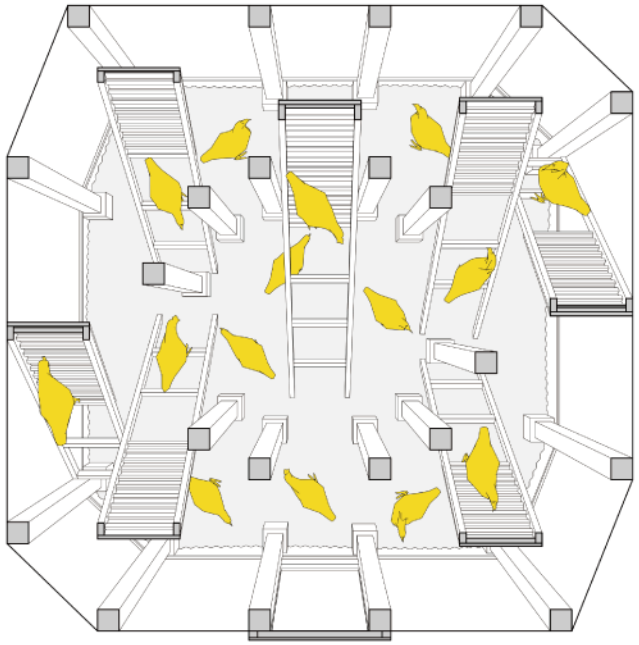
数万羽を飼育する大規模鶏舎では最初の感染から、死亡率が格段に上昇するまで感染拡大をキャッチすることが出来ない。死亡率が上昇してから感染に気付いた場合、鶏舎内ですでに感染の歯止めが利かない状態となり、鶏舎内のすべての鶏を殺処分せざるを得ず大きな損害が出てしまう。一方小規模経営の鶏舎は一羽一羽健康を目視で確認することが出来るため、感染に気付きやすく対処も迅速に行うことが出来る。



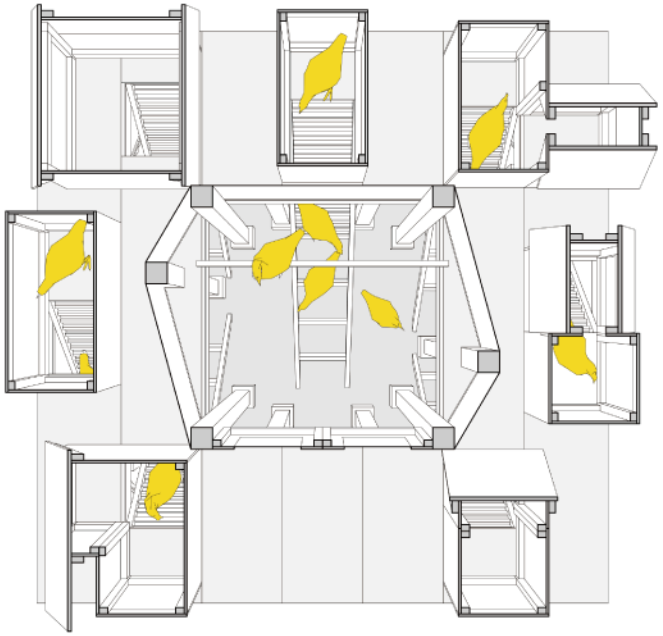
展望：小さく経営する鶏舎を増やすことで、養鶏産業全体のセンサリングとして機能する

日本でアニマル・ウェルフェアのＥＵ基準を採用した場合、今と同じ設備での生産量は 12% ほど減少する。供給量の減少に対し、現在の集約型鶏舎を増築するのではなく、小さく経営する鶏舎を増やすことで、今まで大規模鶏舎がキャッチできなかった感染をキャッチすることが出来るようになる。小さな鶏舎のセンサリングネットワークが広範囲にわたって構築されれば、養鶏産業全体の感染予防対策につながるのではないかと考えている。



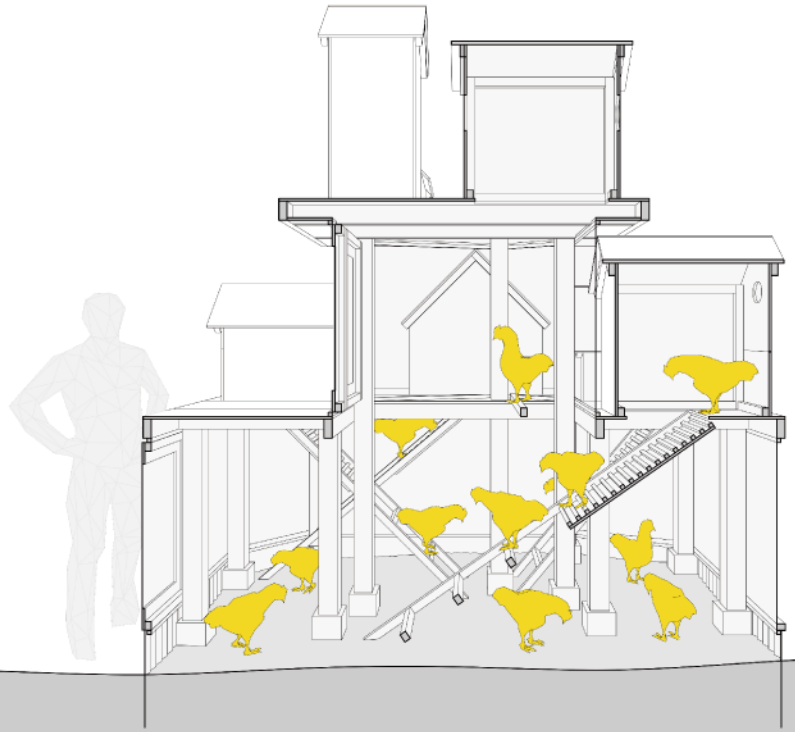


1Fplan



2Fplan

SectionA



SectionB

Fig.3 小屋への入り口

Fig.2 人間用出入口

Fig.1 卵の取り出し口

Fig.5 小さな鶏の街

Fig.4 滝ケ原ファームを背景に